

平成22年第4回邑楽町議会定例会議事日程第3号

平成22年12月14日（火曜日）

午前10時開議

邑楽町議会議場

第 1 一般質問

○出席議員（15名）

2番	遠藤幸夫	議員	3番	大野貞夫	議員
5番	田部井健二	議員	6番	小沢泰治	議員
7番	山田晶子	議員	8番	岩崎律夫	議員
9番	加藤和久	議員	10番	小島幸典	議員
11番	立沢稔夫	議員	12番	小倉修	議員
13番	横山英雄	議員	14番	本間恵治	議員
15番	細谷博之	議員	16番	相場一夫	議員
17番	石井悦雄	議員			

○欠席議員（1名）

1番	小島陸夫	議員
----	------	----

○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

金子正一	町長
河内登	教育長 職務代理者 学校教育課長
中村紀雄	総務課長
小倉章利	企画課長
立沢茂	税務課長
小島敏晴	産業振興課長 兼農業委員会 事務局長
相場利夫	生活環境課長
諸井政行	保険年金課長
横山正行	土木課長
石井貞男	都市計画課長
神山均	住民課長
小島哲幸	福祉課長
飯塚勝一	会計管理者 兼会計課長
増尾隆男	水道課長
大舩一	生涯学習課長

○職務のため議場に参加した者の職氏名

田	口	茂	雄	事	務	局	長
田	部	井	春	彦	書		記

◎開議の宣告

○相場一夫議長 これより本日の会議を開きます。

[午前10時00分 開議]

◎一般質問

○相場一夫議長 日程第1、一般質問を行います。

昨日に引き続き、順次発言を許可します。

◇ 横 山 英 雄 議 員

○相場一夫議長 13番、横山英雄議員。

[13番 横山英雄議員登壇]

○13番 横山英雄議員 13番、横山英雄です。発言通告に従いまして一般質問を行います。

質問に入る前に、議長にお願いがあります。私が答弁を求めたとき以外は指名をしないように、また質問に対し答弁が違っている場合、私が違うと言った場合には、即答弁をとめてください。それから、答弁者をお願いいたします。言いわけや時間稼ぎの遠回しの答弁は要りません。真実のみを、聞かれたことだけを明瞭に答えていただくようお願いをします。

それでは、質問に入らせていただきます。私が議員になったのは平成11年5月の20日からで、現在が12年目です。米の転作の関係、認定農業者協議会の設立の件、病虫害防除の件、白菜、ソバ等に大きな被害をもたらすヨトウムシ、環境に優しい防除法ということでフェロモン剤についても私が話したとき、雨の中すぐに現場に行き、実際に自分の目で見て確かめて、JAや普及センター、そして情報収集を一生懸命やってくれて試験も行ってくれた。牛のBSE対策、転作関係についても非常に努力をしていたと私は認めます。あのころはスピード感があり、実にすばらしく、頼もしい課長だったと思います。そんな課長だから、11年4月から15年の3月31日まで農政課長、産業振興課長兼農業委員会事務局長として定年まで頑張ってくられたと思います。あのときは課長みずからの考えで対応できたのか、それとも首長の命を受けてから対応したのか、伺います。

○相場一夫議長 金子町長。

[金子正一町長登壇]

○金子正一町長 私課長在任中の経過について大変お褒めの言葉をいただきましてありがとうございました。19年の12月19日から、こういう形でお世話になったわけではありますが、当時のこと、課長としての判断でやったのか、長の命を受けてやったのかということのお尋ねではありますが、当然のことながら、それぞれの問題についてはつぶさに調査をさせていただき、当然のことではありますが、長と協議し、長の命に従って実施をしてきたとお答えをいたします。

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 自分がすぐに対応し、そしてそれを長に報告し、そして長の命を受けて動いたと、わかりました。

退職をしてから、議員として4年7カ月、町長になって3年、とてもあのころと同じ人間とは思えないような、実に驚いた変わり方です。私たちと血液が同じなのか、違う血が流れているのか、不思議に思います。もともと体の中にあり、静かに隠れるように眠っていたものが権力を持つことによって表に出てきて、本性をあらわしたのかなと思います。職員当時のあなたを知る私にとっては、とても信じられないような変わりようです。人を信じることができず、謝罪もすることもできず、口先だけで、その場だけが逃れられればいい、何にも知らない有権者にはにこにこ、ぺこぺこ、その反動が、そのストレスが、逆らうことのできない人たちに来ているのかなと思います。そんなあなただから、3年たっても副町長、教育長もできない、受けてくれる人がいないのではないですか。どこの市町村にもこんなところはないと思う。町長、きのうの本間議員の質問、町長の間責決議可決に対して反省や謝罪も一つもなく、残念ですと。あの間責決議は、町民の代表の議員が議会で議決をして決まったことです。その重みをあなたは少しも感じない、あなたはどこか精神に異常があるのではないかなと思いますが、本当にお気の毒です。きのうの間責決議どう思いますか、もう一度答えてください。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 きのうの間責決議ということですのでお答えはできないのですが……

〔「質問に対して、きのうの質問に対して」と呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 間責決議の本間議員に対してのお答えということであればお答えができますが、それでよろしいでしょうか。

〔「本間議員に対して答えたのと、今私が聞いた答えと」

と呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 わかりました。質問の趣旨が理解できなかったものですから、お聞きをして失礼いたしました。

間責決議案が9月の定例会で可決をされました。議長を除いて8対7というような形での可決でしたが、その決議案の内容等について、私は今までお世話になった中で真摯に行政運営をつかさどってき、町民の皆さんへのサービスに努めたということを思うと、非常に残念であったという考え方であります。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 静粛をお願いします。

横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 議長を除いて8対7、決まったのです。決議されたのです。何を考えているのだ、議会は決まったことに従ってやっているのだ。議会で決まった。聞いてもしようがないから、もう次にいく。余りやっていると頭が痛くなる。

それでは、4月1日からきょうまで、1年の4分の3ですか、進みましたが、各課長にお尋ねします。所管は結構です。事業、予算、執行状況、そして見通しをお願いします。

○相場一夫議長 中村総務課長。

〔中村紀雄総務課長登壇〕

○中村紀雄総務課長 お答え申し上げます。

当初予算に計上したものと及び補正予算に計上したものを含めまして、年度末事業執行の完了を目指して今進んでいるところでございます。予定どおりということでご答弁させていただきたいと思っております。

○相場一夫議長 小倉企画課長。

〔小倉章利企画課長登壇〕

○小倉章利企画課長 お答え申し上げます。

企画課の執行状況でございますが、全体的には現在約70%の執行状況になってございます。今後工業統計調査等、12月31日現在の調査もございまして、その点鋭意努力してまいりたいと考えております。よろしく申し上げます。

○相場一夫議長 立沢税務課長。

〔立沢 茂税務課長登壇〕

○立沢 茂税務課長 税務課の予算関係につきましての執行状況を申し上げます。

まず最初に、歳入でございますけれども、現状で執行率は72.2%、前年並みの推移ということで考えております。歳出につきましては、税務総務費、それから賦課徴収費でございますけれども、約85%の進捗率でございます。例年並みの進捗ということで考えております。

以上でございます。

○相場一夫議長 飯塚会計課長。

〔飯塚勝一会計管理者兼会計課長登壇〕

○飯塚勝一会計管理者兼会計課長 お答えいたします。

まず、町の会計を預かる会計課としてお答えいたします。一般会計予算全体の執行の割合、つまり執行率を申し上げます。11月末現在の一般会計予算の執行率は、執行率と申し上げますと工事請負契約とかの契約が済んだものということで把握しております。60.96%でございます。

以上でございます。

○相場一夫議長 大拙生涯学習課長。

〔大拙 一生涯学習課長登壇〕

○大船 一生涯学習課長 生涯学習課の社会教育費及び保健体育費の現在の執行率につきましては、62.3%でございます。各係とも順調に事業を執行しております。

○相場一夫議長 河内学校教育課長。

〔河内 登教育長職務代理者 学校教育課長登壇〕

○河内 登教育長職務代理者 学校教育課長 学校教育課関係でございますけれども、事務局、学校、幼稚園、そのほか給食センターの特別会計をお預かりさせていただいているところでございますが、人件費を除いての現在の予算の執行額ということでお答えさせていただきますと、比率にしますと約70%の執行率となっているところでございます。12月ということを考えれば、おおむね順調に事業を推移できているかなというふうには考えております。

また、今後につきましても無駄を削る努力を続けながら、必要な予算の執行をさせていただきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○相場一夫議長 相場生活環境課長。

〔相場利夫生活環境課長登壇〕

○相場利夫生活環境課長 生活環境課の予算執行状況ですけれども、主に交通関係事業、それから防犯、地球環境対策事業、そして清掃関係ですけれども、執行率につきましては70.8%の執行率でございます。

以上です。

○相場一夫議長 諸井保険年金課長。

〔諸井政行保険年金課長登壇〕

○諸井政行保険年金課長 お答えをいたします。

保険年金課関係の予算につきましては、一般会計で保健センターがございますが、その中の成人保健、母子保健の予算執行率ですが、53.51%でございます。また、保険年金課で特別会計を持っておりまして、国民健康保険特別会計につきましては54.63%です。

次に、介護保険特別会計につきましては執行率は69.33%でございます。後期高齢者の医療特別会計につきましては、執行率は48.46%でございます。老人保健特別会計につきましては、執行率は55.64%でございます。

今後の見通しでございますけれども、今後も各事業、各会計とも適正にいろんな状況、執行状況等も勘案しまして順調に進んでいきたいと、そういうような安定した運営に努力していきたい、そういうような考えでおります。

以上でございます。

○相場一夫議長 小島福祉課長。

〔小島哲幸福祉課長登壇〕

○小島哲幸福祉課長 お答えを申し上げます。

福祉課が所管している部分につきましては、総計ということではなく各項目別にご報告をさせていただきたいと思っております。まず、社会福祉の予算の執行状況につきましては73%でございます。

それから、児童福祉の執行状況でございますけれども、62.76%でございます。

それから、障害の関係の部分につきましては67.19%の執行率でございます。

それから、児童の中から保育園だけを抜き出してまいりました。その部分につきましては66.86%の執行率でございます。

以上でございます。

○相場一夫議長 神山住民課長。

〔神山 均住民課長登壇〕

○神山 均住民課長 住民課の執行状況について報告をさせていただきます。

住民課におきましては、今現在人件費を除きまして約90%の執行率でございます。また、住民課につきましては証明書の発行とか相談事業などいろいろございますが、大体前年並みで推移しております。

以上でございます。

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 ほぼ70%近い、50%台もありますが、推移をしている、順調にきているのかなと思っておりますが、この予算を組むに当たって、どのような考えで、どのようにして組んだのか。これは、課長を代表して総務課長と町長に答えてもらい、職員との信頼関係によって予算を組むのでしょうか。昨年と、また来年度の予算編成に向けて、お答え願います。

○相場一夫議長 中村総務課長。

〔中村紀雄総務課長登壇〕

○中村紀雄総務課長 町の予算の編成につきましては、議員もご存じのとおり歳入と歳出との問題を検討しながら予算編成を行っているところでございます。

町の予算編成の方針としますと、一つとしては町の今後の今年度、来年度ですか、次の年度の基本的計画の中のものについて予算要求をしていただくということでございます。予算要求をされたものについては、財政ということで総務課のほうで査定をさせていただいて、無駄なもの、その計画が終わったもの等について査定をして、最終的には予算を編成し、議会に上程することになります。今現在23年度の予算編成に入っておりますけれども、景気の低迷等によりまして町民税等の増収がなかなか図れないと、しかし一方では扶助費等の費用が大変ふえているということで、大変苦勞しているところでございます。そのような中で、各課の要求に対して厳しく査定をしながら、町民の要求に対していかにこたえていけるかということで現在取り組んでいるところでございます。

予算編成の立場としては以上でございます。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 ただいま総務課長のほうから申し上げましたが、特に昨日もいろいろご議論いただきましたが、町の総合計画、10カ年の総合計画があるわけですが、その計画の実施計画等も当然視野に入れていく中で、次の年度にわたっての事業計画、各課から積み上がってきたものについて、23年度の予算に結びつけていくということで考えております。具体的に予算は、総務課長と担当課長とで査定中でありますので、具体的な数字はまだ詰まっておりますが、積算・編成方針ということについては、そのような考え方であります。

歳入の部分では、総務課長が申し上げましたように、税収等も含めて大変な経済状況があるわけですので、この見込額も年々脆弱になってきておるのかなというふうに思うわけではありますが、できるだけ効率的な予算編成に心がけて、町民の皆さんへのサービスに努めていきたいと、こんなふうな思いでもございます。

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 職員との信頼関係、全職員が一丸となって仕事をやっている、一つの気持ちで町政運営に当たっていると町長は常々言っておりますが、39年間職員として町役場に勤務した職員も数多くいると思う。その職員一人一人の、あなたは名前と顔は覚えます。能力や技術力、性格等、ある程度は把握をしていると思うのですが、退職する課長はともかくとして、来年度はこのようなことをこのようにこんな予算でやりたい、そして予算を組み、折衝し、予算を立ち上げると思うのですが、この中であなたは、先ほど冒頭申し上げましたように産業振興課長として長くやっておられた。この課長の中で、当初予算を組んで、担当その課でやっている課長は何人いるか、起立願います。22年度ですよ、今です。この予算の4月1日から、3月に組んで課長としてそこでやっていた課長は何人いるか。

〔執行部起立〕

○13番 横山英雄議員 4人ですか。はい、結構です。1年間私はこうやりたいと、そして予算を組んだのではないですか。人が組んだ予算、自分だったらこうしたかった、こうやりたいと思って予算にのせる、人事権は町長にあるのですから、そしておまえはあっち行けこっち行け、人の組んだ予算で、それでも70%近く何とか進んでいます。私も農業やっていますが、百姓をやっている、豚のことや牛のことやキュウリ、トマト、わかりません。米だとか、里芋だとか、麦とか、自分がつくっているものだったらわかるのです。あなたが39年職員としてやって、きのうの答えは何ですか、答弁は。職員としてあんなに長く役場にいてあの程度かなと、とてもがっかりさせるような答えです。ここにいる課長も、得意な分野あるかもしれません。特技もあるかもしれない。ここでやりたいと思って予算を組んで、異動させられて、まともな力が発揮できると思いますか。それこそあなたが言っている、町民をないがしろにしている政治が行われているというのはこういうことで

はないですか。町民のためにならない、私はそう思います。

口だけは格好のいいこと言って、やっていることはとんでもないことをやっている。なぜ職員が信頼できないのですか。自分がやっていたときには、自分で動いて、そしてこれを首長に話して、そして執行していたのでしょうか、動いていたのでしょうか。職員に任せて、間違ったら自分が責任とればいいのです。あなたは、責任はみんな人に、部下になすりつけているのではないですか。きのうも出ましたけれども、実弟がやめたってあなたは何の責任もとっていない。ミスをして何の責任もとっていないではないですか、職員がかわいそうです。職員は親が選べないのだ、首長はあなたですから。あなたの下でやるしかないのです。

それから、20年の3月31日、退職者が9名ですか、21年の3月31日でやめた方が13人、22年の3月31日でやめた方が9人、この中であなたと同じように定年まで勤められた方は何人いますか、教えてください。

○相場一夫議長 中村総務課長。

〔中村紀雄総務課長登壇〕

○中村紀雄総務課長 お答え申し上げます。

平成19年度の退職者の中で、定年を迎えて退職した方は6人でございます。平成20年度が定年を迎えて退職した方が9名、平成21年度が2名です。この3年間で、定年で退職された方が17名になると思われます。

以上でございます。

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 本当に途中でやめられる方は、あなたに聞けばそれぞれ事情があったと、私の責任ではないよという答え決まっていますから、聞きません。もうこれだけの多くの方が途中でやめられるというのは、相当な何かがあるのではないですか、あなたはわからないでしょうけれども。普通だったら、定年まで何とか頑張っていきたいなと思うのが普通かなと思います。時間もなくなりますから、これはもうこれでやめます。

それから、19年の9月1日に出馬表明をしましたね。町民をないがしろにした町政が行われている、情報公開を進め透明性の高い行政運営、西邑楽3町での合併を実現し、広域合併は住民の意見を聞きながら考えたい、今の町政には閉塞感があり説明不足、情報公開100%にし、明確で透明性の高い行政運営を、そして100%情報公開、まず合併協議会が中止になっている邑楽、大泉、千代田の3町の枠組みから始めたい、そうやってあなたは町長選に立候補したわけです。スピード感あふれる町政運営、あなたは町長になって、大泉町、長谷川町長、千代田町、襟川町長に、どのようなことで3町合併に向けたお話をいつ、何回行ったか伺います。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 合併の問題についてでございますが、いつ何回ということは具体的に申し上げられませんが、私がお世話になった後に、千代田町では現在の町長さん……

〔「それは聞いていない」と呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 それから……

〔「聞いていない。議長、聞いていない。私はそういうことと聞いていない」と呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 それではお答えできません。経緯がありますので、その経緯を……

〔「経緯じゃない。何回やったか聞いているんだ」と呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 経緯をお話ししてということでのお答えが必要かというふうに思いますので、回答とさせていただきます。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 長谷川町長、襟川町長は現職でいました、あなたがなったとき。3町合併の枠組み、まずは3町から。それで当選したのでしょうか、なぜそんな大事なことを覚えていないのですか。スピード感あふれる、なってすぐにお願ひに行った回数もわからないのですか、経緯ではないです。あなたは答えていますよ、前に。大泉町は新しい首長が自立でいく、千代田町とはそこまで話が進んでいません、新しい町長とは。言ったのだよ、前に。私は、そんなことを聞いているのではない。いいですか、ここに新聞があるのです。あなたが出馬表明をしたときに、大泉合併で太田市長、隣に出ているのです。大泉町は西邑楽3町でやる気はないのですから、そんなことをあなたは承知で、西邑楽3町だと言っていた、何にも知らない町民をだまして。できるはずがない。票が欲しいからだまし続けたのです。なって、だから行けないのでしょうか、何回って。どういふ願ひをしたかということは言えないのです、できるはずがないのだから。あなたは、法定協議会に何度も傍聴に来ました。私が合併問題特別委員長、いいですか、最終の千代田町、町民プラザ、知っていますよね。あなたは、庁舎の位置が問題でだめになったと、そんなことを言ってだましていますが、そんなことはありません。庁舎は大泉町に決定したのです。採決までやってののです。休止にしたのは長谷川町長です。採決したのです。採決して決定したのだ。これが、千代田町で始まる前に私が発言した内容です。邑楽町の委員は、邑楽町は住民発議によって法定協議会に立ち上がったのです。だから、いいかげんな気持ちではいけないのです。だから邑楽町は、協議会の委員は勉強会をやり、邑楽町がマイナスにならないように、そういうことで勉強していったのです。協議は一向にする気はありませんから、大泉町は2回で終わりにするのだと。大泉町は、あなたのような事情があったのですよね、選挙が、町長選が控えて。今は町長さんがかわりましたから、前町長は西邑楽3町と言っているのだと、大泉町は生活圏が太田市なのだと、それでは対抗馬立てるべと動きが

あったのですよね、慌てて、ただ大泉から持ちかけた協議会を大泉町が壊すわけにはいかない、何とか邑楽町のせいにしてこの協議会をやめようと仕組んだのです。採決に入る前に、大泉町の副委員長、川島洋、私の同級生ですから、4回も聞きました、私に。採決して決まったらどうするのだ、委員長、これ決まったらどうするのですか。民主主義で決まったことには従いますと、邑楽町は庁舎をつくるために、今ここですよ、26億基金がありますと、合併して事務所をつくるのであれば、邑楽町は16億出しますから、ぜひここへ3町の庁舎をつくっていただけませんかとお願ひしたのです、邑楽町は。しかし、採決の結果は大泉町に決まったのです。決まってから休憩をとり、再開してみたら、休止と突然長谷川町長が言い出したのです。慌てたのが千代田町です。大泉町に乗って邑楽町を一生懸命攻撃して、そしたら休止にされてしまったのです。あるとき大慌てをして一番困ったのは千代田町、私は何回も挑発を受けまして、村山委員長が横山、横山、横山がなんて私が腹立つのを待っていたのです。私はしらばっくれです。私が腹を立てて冗談ではないと立てば、邑楽町の委員は全部席を立て、邑楽町がボイコットしたとなったのですが、残念ながら私はあるとき耳がちょっとおかしかったから、聞けなかったから怒らなかったのです。休憩になってから、呼びつけてこのやろうとやったのですけれども、邑楽町が壊したのではないのです。あなたは、やる気がない、できないはずの西邑楽3町合併実現、そういうことで町長になって何一つしていない。議会にかけましたか、やっていないでしょう。だまただけです。後で必要ならば上げますけれども、これはこの辺でやめておきましょう。

それから、税務課長にお伺いしますが、滞納整理、町長が先頭に立って、私が先頭に立って滞納整理に当たると言ったのですが、どのくらい町長はやりましたか、ちょっと伺います。

○相場一夫議長 立沢税務課長。

〔立沢 茂税務課長登壇〕

○立沢 茂税務課長 お答えいたします。

私が税務課長になったのは本年の4月からですけれども、本年度管理職による滞納整理を今実施しているところです。10組で20人ということの中で……

〔「町長はどのくらい集めたかって聞いているんだよ」と

呼ぶ者あり〕

○立沢 茂税務課長 現時点では、まだその集計が出ておりませんので、2人1組ということで町長も職員と1組になって滞納整理のほうには。現時点ではその集計が出ておりませんので、この滞納整理につきましては1月いっぱいまでということで考えておりますので、その後には報告ができるかと思えます。

以上でございます。

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 ほとんど滞納整理はやっていないのではないかと、町長は。

それから、今度はもう一つ、あなたにだまされて一生懸命やった農家があります。ことしは、猛暑により乳白米、非常に困っています。かかる経費は変わらないのですが、入るものが入らないのです、半分以下です。あなたを信じて一生懸命応援したのに、それは産業振興課長のときの、あるいは頭に焼きついているのが、にこにこ、にこにこ、ぺこぺこして、1万8,000円だなんて何を言ったかわからないのですが、後になったら、買うとは言っていない。だれもが、聞いた人は1万8,000円で買ってしてくれるのかなと思ったのですが、買うのではないのですね、1万8,000円で食べていただければと、それも全然やっていません。2年間もだまされ続け、3年目になってこんな天災が起きて、味は変わらないのだよと、そんな話が出てきましたけれども、実際に安く買いたたかれて、みんな農家は手放したのです。天災だから、財調を取り崩してでも面倒見てやれないかと、何度も議会でも出ましたよね、全協でも。私はあなたの手柄になるから、本当はあなたの手柄にならないほうがいいから、そんなことはやりたくはないのだけれども、でも本当に農家は困っている。だから助けてやってくれと、議会はみんな了解していると思います。それがトップではないですか。最初私が質問したときに、全協でやったときには何の答えもなかった。それから何日かたったら、太田市が補助を少ししよう、館林市がしよう、それでもあなたは何とも言わない。回りの様子を見て、あれよりかちょっと1,000円ぐらい余計に出すかなと、その程度です。本当に困っているのですから、思い切ったことがなぜできないのですか。あなたは首長でしょう、議会の同意をいただければやれるのでしょうか。どのくらい応援できるのですか、あなたの口から伺います。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 本年災害による米の品質低下、収量についてはさほどなかったようですが、品質低下による価格の低迷ということは承知をいたしております。そこで、町のほうとして農家の方にとこの考え方がありますが、過日の10日の補正予算でも可決をいただきましたが、当然のことです。邑楽町は、米麦を中心とする町ということもありますので、この災害ということを含めて、生産調整の実施者については10アール当たり5,000円ということで可決をいただいたところでもあります。中身については、農業共済加入農家10アール当たり3,000円、そして生産調整100%の実施者ということで2,000円ということで、計5,000円の支援を行ったところでもございます。

以上、報告をさせていただきます。

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 私は、ちょっと説明を聞いたときに耳を疑いました。60キロ当たりですかと聞き直した。そうしたら10アールです。あなたが1万8,000円と言ったのは、100キロですか、200キロですか、うそではないですか。そして、後継者の育成だとか認定農業者を育てて大事にするのだとか、うまいこと言っている割には期待外れです。米つくりをやめる人ができるのではないかなと。けさの新聞に、米粉だとか飼料米とか、こういうことが載っています。飼料米は10アール当たり8

万円、邑楽町でも2名ぐらいやっていますよね、2名の方だと思うのですが。農業を一生懸命応援するのであれば、こういうことをあなたはトップセールスと言っている割には、どこへも行ってお願いしないのでしょうか。幾らでも、群馬県は畜産県でしょう、そういうことを考えてできるのではないか、あなたがここ行けよと、それか自分で、トップセールスだから自分がやるのでしょうかけれども、残念ながら副町長がいないからかわりはできないし、すべて一人でやらなくてはならないから大変ですよ、なぜ副町長ができないのかな、困ってしまう。非常に困っています。これは変わらぬですか、追加する気はないのですか、10アール5,000円で。もう一回お願いします。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議決をいただいた予算の範囲内で支援をしていきたいと、そのように思っております。変える考え方はございません。

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 私が先ほどから言っているのは、これは天災なのだとおっしゃっているのです。天災だから、財調が使えるのではないですかと、そういうお願いしているのです。それでもあなたはだめなのです。言っていることとやるのが全然違う。それから、ではもう結構です。この話はやめましょう。

2度ほど質問をしてありますけれども、鞍掛第三工業団地内にある道路、オールユニール、カンダコーポレーションができる前から、間もなくできるのだから、千代田町のジョイフル本田が3月にできるのだから、あの道路何とかならないですかと6月、9月に言いました。今は、オールユニールもカンダコーポレーションも操業しています。3月をめどに、ジョイフル本田が開店すると思います。大交通渋滞が起こるのではないかなと思っています。前に言ったように、あそこの道路は354号へつなぐのですかと聞いたときに、6月では国、県からの補助金ということ、依存財源、十分研究する必要があるだろう、事業採択に向け鋭意努力をしていく、県のほうへぜひ早急に行えるよう実施に向けてお願いしたいということで出向いていると。県に何度お願いに行ったのか、お聞かせください。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 県に何度行ったかということですが、その前に私の、16—13号線ということでもよろしいのかなと思っておりますが、その考え方をお示ししたいと思います、よろしいでしょうか。

〔「質問だけに答えればいい」と呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 そういふことでしたら、県のほうに出向いた折には、県の企業……

〔「県に行ったのであれば、何回それで行ったか聞いている」と呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 企業局の管理者、あるいは工業団地の、この進行している室長さん等にも、この16—13号線についてはお伺いし、ぜひ採択に向けてお願いしたいということであります。回数ということではありますが、その回数カウントしていませんので、お答えできませんが、常々、また23年度もこの問題については事業採択、あるいは実施に向けて努力をしていきたいと、そのように思っております。

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 前にもちょっと言ったことあると思うのですが、町長に立つとき、毎戸にもう来るなどと言われても何回も何回もお願いに行った、あの熱意を持ってやってくださいと私は6月をお願いしたのですけれども、9月の定例会の答えでは、事業認定を受けるような計画が先かなと思っている、鋭意努力を重ねていくということはやぶさかではないと、議員の意見は貴重な意見として、仕事を進めていく上で十分担当のほうにも伝え、可能な限りそういった状況ができればと、そんな考えを持っていますと、本当にやる気があるのですか、これで。聞いている議員も傍聴の方も、これで何としてもやるとは聞こえませんかよ、これでは。言いわけばかりで。だけれども、これはもうどんどん、どんどん進んでいるのですから、私が何か言うと時代は進んでいますからなんて言い出すから、やたらなこと言うとまたとられてしまうから言いませんけれども。これでは、議員とも、職員との信頼関係なんていうのはないですよ、後ろにいる課長が気の毒ではない。

もう一度伺いますが、それではいつ、あそこができるようになるのですか、またもう一度町長になって、それからですか。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほども、私の考え方をお示ししようということで発言をさせていただいたわけですが、当然国、県への依存財源ということでありますが、これは決して借金をするというでなくして、できるだけ国、県からの補助金等を受けるために、その事業採択ということをお願いをしているところでもございますが、さて結論を申し上げます。

いつまでにとということのお話でありますが、一応考え方を申し上げたいと思いますが、町道16—13号線ということの鞍掛第三工業団地と国道354号線を結ぶ道路のことということのご理解でよろしいでしょうか、そのことでお答えをいたします。平成21年度の中では、第1回の地元説明会を行いました。この折には、地区の区長さん、それから土木委員、地権者の方、そして担当する地域の議員お二人にもおいでをいただいて、その説明会を行ったところでもございます。平成21年の12月7日には、その道路の開通に向けて、実は地権者の皆さんから事業同意書を町へいただいたところでもございます。22年度については、今議員がおっしゃられたように、私もその事業採択が受けられないということで、予算積算はいたしました。さきの議会の中でそれを減額させていただいたということは承知をいただいております。今後です。平成23年度については、議員の皆さんのご協

力をいただく中で、事業費として土地の買収といいますか、用地買収、それから当然のことではありますが、事業を進めていく上で設計図書等の作成ということもございます。そういうことの委託を含めた中で、特に地権者の皆さんのご協力をいただく中で用地買収を進めていければと、そのような考え方でございます。当然大変な予算の執行ということになります。今23年度に向けての予算の積算中ではありますが、議員の皆さんの協力をいただいた中で進めていければと、こんなふうに思っております。

完成ということのお話ですが、あそこが17メートルの幅員ということの計画でもございます。それから、橋をかけるということがございますので、それらのことをいろいろ考えますと、平成26年度を目標年次として考えていければと、そんなふうな計画でございます。

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 何年先の話ししたのだ、26年度何とかと言ったな、耳がちょっと。やる気がないと、できないということだと思います。

それで、もう一つ、農業の担い手対策事業、ご承知のように定年退職新規就農者、そういう方たちが邑楽町は主力かなと思います。そしてまた、70歳以上の高齢な方が大変おります。若い人が育っていない。あなたは、どのような考えで若い後継者を育てたいと思っているのか、考え方を聞かせてください。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 ただいま邑楽町の農業従事者の経緯が議員から示されましたが、確かに新規就農をされる方、それから70歳以上の高齢者の方ということになっておりまして、特に新規就農者についてはなかなか望めない部分があるのかなという思いはあります。しかし、町でも、これは認定農業者の皆さん、それから若い方々の農業に対する生産意欲ということについても、大変な農業の中ではありますけれども、取り組んでいる方もおられるわけでもございまして、私自身はそういった方々への町としての支援ということも応援をしていきたいという思いではあります。特に横山議員におかれましては、県で指定された農業経営士ということの立場でもありますので、そういった方々の指導者の皆さんの指導を受けながら、この就農、担い手の確保がしていければと、そんなふうに思っておりますので、やはり従事している方々のいろんな苦労だとか、そういうこともお聞きした中で担い手対策を進めていければと、こんなふうに思っております。

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 今町長が言った農業経営士は、私は3月で定年退職しましたから、65歳定年ですから。ひとつことしの猛暑、米の乳白米等ができた、あれはあなたは天災と思わないですか、それだけをお聞きします。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 異常気象ということの状況があると、猛暑日が続いていると、その結果、品質の低下が起きたということの因果関係がそこまでどうかということもありますけれども、単純にそういうことを理解すれば、災害である、天災であるのかなと、そんなふう認識をいたしております。

○相場一夫議長 横山英雄議員。

○13番 横山英雄議員 天災の認識があるにもかかわらず、あれだけ一生懸命農業は、農家は金子でなければだめなのだと応援してくれた人たち、そういう人たちに対しての答えがあの程度だと、がっかりでしょうね。何かあれば、議員が賛成してくれればできるのだと、議員が賛成してくれないからできないのだと言っておきながら、今度は議員から、議会が何とかやってくれないかと、それでもやれない。これは議会のせいですか、議会が反対するから出せないか、どちらのせいにするのですかね。私は、でもよそよりか出しましたよというのか。もっと期待をしていたのですが、残念です。

終わります。

○相場一夫議長 暫時休憩いたします。

〔午前11時20分 休憩〕

○相場一夫議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午前11時30分 再開〕

◇ 小島幸典議員

○相場一夫議長 10番、小島幸典議員。

〔10番 小島幸典議員登壇〕

○10番 小島幸典議員 皆さん、お世話になります。10番、小島幸典です。議員の責務により、通告どおり住民の代表として一般質問をいたします。

最近日本周辺の海域では、尖閣諸島で中国漁船による衝突事件、また北方領土へのロシア大統領の北方領土訪問と、また北朝鮮から韓国の延坪島への一方的砲撃などで世界を震撼させて、日本政界での混乱が一時静かになったことは、皆さんご承知のことと思います。また、国内では沖縄での軍事基地の移設問題を初め民主党政権の内部崩壊的な政争を見ますと、国の生活の基盤である輸出産業までが、円高不況により中小企業も海外生産に向かう雰囲気が多くあり、国難来ると思われている世相の中で、農業政策にあってもTPPへの外交圧力により進路選択に苦労している、現在政府による仕分け作業による結果が、思うように民意が反映されていないのは皆さんのご承知のとおりでございます。交付金の削減や国の借金も、約1,000兆円になったと新聞は伝えております。このまま続くと、ギリシャや北欧のフィンランドのような経済破綻になることを心配している識者も

おります。邑楽町にあっても21年度9月末の町債、借金は、水道事業を含めて約88億6,279万円あると広報でも載っています。今後給食センター、中央公民館、町営住宅、中央児童館、中野小学校のプールなどの箱物建設を十分研究、準備をして計画的に行っていないと、町民の血税を大切に使うためには各事業において検討委員会をつくり、対象建物のランニングコストを十分研究、計算をして、人に対しての優しい環境も考え実施することにより、町民の負担軽減のため、議会の役割であり、責任の重い仕事であります。

また、それ以上に町執行部の行政指導も重大な責任を負うこととなります。ランニングコストは、町民の税金を何年も何十年もつぎ込んでいくことで、場合によっては北海道の夕張市のようになってもいけないし、またしてはいけないと思います。金子町長は、12月19日をもってはや3年になります。金子町長就任当初の本議会で、金子政治レストランの使用人になりますよと私は約束をしました。私は、約束どおり3年間の政策、作業メニューを見てきて、私には到底おいしく食べられるものではなかったです。きょうこの議会で精査、点検を町民の代弁者として質問いたしますので、明快で前進的な答弁を逃げないで、全町民のため、また20年、30年後の邑楽町民が、ああ、金子町長のおかげでこういう生活ができると喜ばれるような町づくり計画を勇気を持って、改革推進を期待して質問に移ります。

まず、3月9日、第1回定例会において議案第6号、邑楽町課設置条例、提案の16課から14課に集約、一緒にして、それで課を整理しますよと、そういう提案が出されました。町長が提案し、当時の総務課長から丁寧に説明がありました。残念ながら否決となったが、反対討論の議員の何人かからは、タイミングや時期が悪いと発言がありました。この議案作成には多くの時間を費やして、課長さんには本当に精神的なことも加味して苦勞があったことだと思います。そのような職員の努力に、町長は報いる責任があります。また、この改革は避けては通れないのではないかなと、再度の提案を希望します。そして、統合計画が説明によりますと数百万円かかると正直に説明がありました。前総務課長ですね、説明は。課長が1人削減されることで、その分はきのう大野議員の質問にもありましたように、福祉や年金業務が右肩上がりに、また職員の作業部署が多くなるので、そこでサービスを業務に対応することにより行財政改革の一助になることで、1度否決されただけで忘れては、前課長にも町民にも、賛成した議員にも失礼と思いますが、町長のこれからの行政改革の考えと意気込みを聞かせてください。お願いします、町長の考えを。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 機構改革のお尋ねですけれども、私自身現在の、いわゆる経済状況、将来にわたっての状況等を含めた中では、やはり機構改革の必要性は私自身持っているわけでありましたが、今言われました3月の定例会の中では、大変職員と詰めた中での機構改革案を提案したわけでありましたが、残念な形で、8人の議員からいろいろなご意見をいただきました。その中にも幾つもあるわけ

ですが、いずれにいたしましても行財政運営を進めていくということは、避けて通れないということになります。必ずしも職員を少なくしてということにはならないわけでありませけれども、やはりその部分も避けて通れないのではないかと。その結果、国のほうでも行財政改革の、いわゆるプラン、計画をつくって職員定数を何名にこなさいというような目標値まで示してきているということは、そういうことに結びつくかなというふうに思っておりますので、私自身いろいろなご意見、反対のご意見はいただきましたけれども、今後十分中身を精査した中で、この機構改革も含めて行政運営を進めていきたいと、こんなふうに思っております。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 町長から行政運営、行政改革を進めていくと、そういう流れの中で、とにかく3月にはもう一度形を変えてでも、例えば2つを1つの課にしても、もう一つ前の、課長は税制徴収推進員ではなくて、部署をつくるのだと、そういう新たな仕事の、時代に合わせた仕事の組織をつくっていくということがこれからの町づくり、私きょうは多くの質問しますけれども、組織というのは非常に古くなると弊害があります、よどみが出たり。先ほどだれかが言ったように、適材適所ではなくて、新しいところへ入ってしまうと非常に能率が落ちる、そういう能率が落ちるのをカバーするには、新しい全然違う組織の中へ入ると勇気がわきます、人間は。そういうことを考えて、これはぜひ3月には、ことしの機構改革と違った意味でもいいですから、出してもらいたい。出せるか出せないか、町長にそれを、町民に発することと、私に約束してもらうことをお願いしたい。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほども議員の中で、反対された方の意見の中にもタイミングが悪い、時期が悪いというようなお話がありました。当然機構改革を実施していくということになりますと、それに伴う予算等もかかるわけでありませるので、現時点3月のときに、来年の3月の定例会に提案できるということについては、十分研究をしていく中で、出せるということにはつながらない、すなわち現時点では提案はできないと、そんなふうに思っております。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 町長は、町長に当選された一つの中で、やっぱりスピード感のある町政の運営、これがないと今の時代はもう後手後手で、いつになっても、先ほどだれか話されたように決まり事が決まらないのです。それで、私は町長の一番の欠点というのは、自分で全部やろうと思っいるからおかしいのです。何で一つの組織をつくってそこに任せられないのかと、そういう、あなたがこれを書いたのでしょうか、スピード感のある町政の運営と。3月までまだ4カ月もあるのです。何でそれができないのですか、前の総務課長はちゃんと提示したのに。あなたが命令したのしょうに、だからおかしくなるのです。あなたは、もうがらがらぼんではないの、だって自分で提案し

たことを引っ込めてしまうなんて無責任ですよ、何でそういう事情で否決されたかと、あなたは考えたことないのでしょうか。だから簡単に、来年の3月は出さないですよなんて、冗談ではないですよ、賛成した議員はどうなるのですか、では。こういうことがいいですよとって賛成したのです。我々に提案権はないのですよ、議員は提案権はないです。だからそういう中で、私はきょう静かにやろうと思ったけれども、どうしてもかりかりしてしまいます。そういうことでぜひ、もう一度聞きますけれども、では今までの前総務課長の仕事というのは無駄だったのですか、無駄ではなかったのですか、その答えを。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 無駄か無駄でないかということを申し上げれば、無駄ではありません。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 無駄ではなかったということで認めてくれていますので、職員も、では次は何かいいことがあるかなと、人間そういう夢がないと先明るくならないので、とにかくどんどん、どんどん町長が言っているように失敗を恐れずに、失敗してもとにかく次につながることをやってもらえればいいと思います。そういうことで、機構改革の推進のことに关してはこれ以上話しても平行線になるということなので、2つ目の副町長についての質問をいたします。

前町長といいますと久保田町長ですけども、久保田町長の選挙公約で税の節約のために副町長は置かないと、そういうことでありましたけれども、行政を進める中で短期的に経験したのだと思います。そういう中で、収入役を副町長にかえて、それで収入役を欠員にした経過があります。それで、現在町長知ってのとおり、本当に議会は右往左往というようなことが間々、ここまで3年間、私が金子町長レストランを見てきて、余りおいしいメニューではなかったなど、そういうことを考えたならば、やっぱり早急に副町長の抜てきをしなければならぬのではないかと、そういう考えで、現時点でまたこれからどのように副町長という職を考えているか、町長にお伺いします。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほど収入役を欠員というふうなお話がありましたが、当時は地方自治法の改正がありまして、収入役から会計管理者ということになったかなと思ひまして、現在でも出納事務をつかさどっている会計管理者おるわけでありまして、欠員ということでなくご理解をいただきたいと思ひます。

さて、副町長の話になりますが、私は以前の議会でも、早い時期に一日も早く置きたいというお答えはしてあります。今議員からもありましたけれども、これは副町長のみならず、教育長も同じであります、選任をするということになりますと、やはり議会の同意をいただければなりません。そういったことを考えますと、この選任をするということも、いろいろ小島議員からも議員

提案で出されたような部分もあるわけですが、そういったことも大変お願いをしづらいというような部分もあるわけですが、いずれにいたしましても議会の皆さんの協力をいただく中で、提案ができる時期があればお願いしたいというふうに思っております。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 今町長は、お願いをしづらいというようなことを言いましたが、だれにお願いがしづらいのですか。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 だれにという固定でなくて、限定でなくて、そういう環境の中ではなかなか話がしづらいということで申し上げました。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 町長、お願いをしづらいというのは対象者があって、それである人にはお願いしづらいとか、そういう問題ではないのですか。全然自分の頭の中で考えていなくて、私がここで質問したから適当に答えておけばいいやと、そういうようなことで私は今受け取りました。それではいつになっても決まりません。それで、私が言うことはみんなノーでしょう、自分で働くのがだめならば公募をしたらどうですかといったら、嫌だといっているでしょう。それでは、あなたは自分の意思というか、ではどういう人が対象でいるかと、例えばあなた好みの大学教授だとか、あとは東毛教育何とかの主事だとか、これは一般の社会から、町から公募すればいいと思うのですが、どうですか、副町長の公募を考えてみますか、それとも2人置いたっていいのですよ。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議員が言われますように公募も一つの方法かと思いますが、やはり地域の状況を十分理解している方というのが、特に地方自治の場合は必要ではないか、私は決して今議員が言われますように大学の教授だとか、そういう立派な方も大切かと思いますが、そういう考え方でというふうに思っております。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 地域の実情がわからない、わかるではなくて、今こういう情報化時代なので。地域のことがわからない人が、公募したからって応募なんかしてこないですよ、それだけの責任を負うわけですから。だから、そういう人を疑うのではなくて、あの人では嫌だなとか、あの人ではできないなと先入観を持たないで、とにかく意欲のある人は1年なら1年、2年なら2年、臨時だっていいのです。そうすれば、町長はもっともっと仕事が、ちまたへ行行って頭を下げられるのです、お願いします、道路をもっと早くつくるのだから地権者に協力してくださいよと、365日行けるのです、任せる人ができれば。そういう心の複眼的がちょっとあなたは欠けているのではない

ですか、もっとやわらかく、1回嫌いな、気に食わない小島議員が言ったからと、いいものはいいと、その辺のもっとやわらかさというか、優しさというのがないと、邑楽町の2万何千人のかじ取りというのにはできないのではないですか。だから、そういう流れの中で、ひとつもう一度聞きますけれども、地域の実情をよく把握するしないではなくて、何とか探せるいい人がいたら紹介してくださいよとか、議会の委員会でもつくって、議会で人事委員会つくってどういうふうに、あなたがこういうふうに出したように、邑楽町じゅう出せばいいのです。65歳までの人お願いしますよとか、そうすれば立派な人がいっぱいいます、邑楽町には。だから、その辺の考えというか、ああ、そうだなと思ったら、ひとつ答えてもらいたい。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 今議員からおっしゃられましたように、邑楽町には立派な方が大変おられると思いますので、ぜひそのようなことを考えていきたいと思っております。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 続きまして、教育委員についてお尋ねいたします。

9月議会に、教育委員の公募制を私、先ほど町長にもお願いしたのですがけれども、町長は公募制は嫌だよと、考えていないということで拒否したわけですがけれども、一日も早く、できるだけという答えを町長からいただいています。その後3カ月たちますけれども、その辺はどんな経過に今なっているか、近況を報告してもらいたい。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 3カ月たった現状では、特にその9月の時点といいますか、ということで進展はありません。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 9月の時点では、腹の中にはあったのかなと、善意にとればそういうことを私は感じていました。ということは、4月30日にある会場で、教育委員のことで何人かの議員と会合を開いて、地域バランスを考えた中での中野地区の議員にお願いしたかしないか、町長は定かではないと言っているのですがけれども、町長は出席したということは確かですね、4月30日。その後の5月11日に、地域バランス云々ということなので中野小学校管内の人の中から、また中野小学校を卒業した人の中からいたらどうかなという議員の中の話し合いで、では小島議員が年長だからということで一応振られた中で、私が議会でも話したとおり教員をやめた人、また教員をやった人、一応経験者5名、それとあと民間でいろいろと今活躍している人たちで2名というようなことをピックアップはしたのですがけれども、町長は今話されたように、話は聞きたくないよと、小島議員の話は聞きたくない、ということなので、何と云って執行権があるのは町長なので、私はそ

れておりたわけなのですけれども、またそういう流れの中では、何名かの中野地区の議員は私に、町長は議員の家を、中野地区の卒業生、中野小学校に勤めた人だとか、中野小学校の卒業者ではなくて、違う人がいいのだということで電話をもらった経過があります。それで私は静かにしていたのですけれども、今現時点での教育委員のことに関しては、これはどんなお考えですか、お聞かせください。町長が、今腹案があるかないかということをお聞かせください。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほどお答えをいたしましたので、そのとおりに受け取っていただいて結構でございます。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 町長は、先ほどお答えしたということは、私は先ほどは副町長の件でというとりえ方で聞いたのですけれども、教育委員のことも自分の頭の中に何も無いということですか、今そういう考えはないということなのですか。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 4月30日の話ということから遡及しますと、私はその場ではあいさつをしたということで同席をいたしました。即退席をし、その後の5月11日の部分については私は全く存じ上げておりませんので、今具体的に小島議員のほうからこういう方を何人、こういう方を何人という話がありましたが、申しわけありませんが、存じ上げておりません。今の時点では、私自身の考えの中では、先ほど進展はないというお答えをいたしましたので、そのようにご理解をいただきたいと思っております。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 今全然自分の頭の中にはないということなのですけれども、それでは教育委員会の中で毎月1回会議を開いていると、そういう中で私は前の議会では、委員の中から暫定的に選んでもいいのではないですかと、そういうアプローチをかけたほうがいいのではないかなという質問をしたと思います。そういう流れの中で、今現時点の教育委員会の会議でそういう話は出ているのか、出ていないか、お伺いします。これ実際に会議に出席している課長でもいいと思うのですけれども。

○相場一夫議長 河内学校教育課長。

〔河内 登教育長職務代理者 学校教育課長登壇〕

○河内 登教育長職務代理者 学校教育課長 お答えを申し上げます。

教育委員会の中でというお話ですけれども、そういった話は出ておりません。

以上でございます。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 教育長というのは、何回もみんなも話を、討議をされたり、議論されているので、わかっていると思うのですけれども、町民はわかっていないのです。何がわかっていないかというと、教育長は教育委員会の中での互選だということがわかっていないのです。だから、私はここで町民の代表として話を、質問をしているのですけれども、教育委員会の中で話が出ていないと今課長が話されたのだけれども、教育委員会の中で話されていないということは、とにかくみんな教育委員が勉強不足なのです。町のことに教育長がいらないということは大変なことなのに、トップがいらないのに、ああ、いなくたっていいやというような考え方かなと。そういうことを考えた場合に、やはり議会の責任ではないのです、これは。教育委員会は独立機関ですから、教育委員会が悪いと私は思うのです。これからでもいいですから、議会でこういう話がありましたと、課長はひとつ一言話してもらいたい、その辺お願いします。

○相場一夫議長 河内学校教育課長

〔河内 登教育長職務代理者 学校教育課長登壇〕

○河内 登教育長職務代理者 学校教育課長 お答えを申し上げます。

議員からのご意見につきましては、十分申し伝えたいと思っておりますけれども、具体的に教育委員さん方も決して教育長が決まらないということでもいいと言っているわけではありません。心配をしているのですけれども、今のところ在任をしている委員の中から、どうしても教育長に就任できる状況にある方がいないということでご理解を賜りたいと思っております。

以上でございます。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 課長のほうから今話を聞いたのですけれども、議会が何もやっていないと言われると議会のほうの責任になるから、私は要するに教育委員会に振ったのです。町民が全然知らないことですから、こういうことはほとんど。教育長というのは教育委員会の互選でしょう、教育委員会の中で選ぶのです。だから、今4人いるのですから、選ぶ気になれば選べるのです。そういうことを考えれば会議開けるでしょう、3分の2以上出席すれば会議は開けるのですから。だから、そういうことをある人は議会が悪い、議会が悪いと言っているけれども、私に言わせれば教育委員会が悪いのです。だって、ちゃんと決められる組織持っているのですもの。それで、みんな議会で承認された人なのですよ、教育委員というのは。承認されているのです、議会でみんな、4人今いる人たちは。だから、そういうことを考えて、私は議会の責任ではないと思うもので、河内課長が会議に行ったら私の話を伝えてくれるということなので、教育委員の問題はこれで終わりにさせていただきます。

続きまして、町道19号についての質問をいたします。これは、さきの議会で補正予算を組みましたよね、9月補正予算で500万円をつけて現在3カ月たっています。委託業務契約が現在どんなふ

うに進んでいるか、その辺の説明をお願いします。

○相場一夫議長 横山土木課長。

〔横山正行土木課長登壇〕

○横山正行土木課長 お答えをいたします。

町道幹線19号線の9月補正予算に伴う執行状況でございますが、事業名といたしまして事業認定図書相談用資料作成業務委託事業でございます。そして、今年12月3日起工決裁が済みまして、同6日入札審査会にて指名業者を選定いたしました。来る21日、指名競争入札を執行する予定でございます。

以上でございます。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 おくればせながら、3カ月たっているいろいろな動きがあるということなので、これは静観して我々議員、議会は見守っていかなければならないかなと、今私はそう思っています。

なぜこれを私がきょう質問したかということ、中野地区で大型ショッピングセンターが今急ピッチで進んでいます。これができる、すごい渋滞が予想されます。渋滞すると、人間の心理としてわき道、わき道で抜け道をします。そういうことになると、お年寄りの交通事故、自転車がはねられたり、子供がはねられたり、それでみんな買い物客というのは大体集中して、夜だとか、朝売りがあれば朝売りだとか、そういうことになると二次災害、要するにそういう人が集まる大きなショッピングセンターができることによって、交通の渋滞の中で、非常にわきの細かい道路の事故が多くなります。そういうことを心配して、私はきょうこの一般質問で何もやっていないということであれば、もっと質問したかったですけれども、動き出しているということでひとつ安心しました。どうも本当に課長には、そういう町の町民に対しての心遣いがひしひしと伝わってきますけれども、そういう流れの中で、町道19号線の質問はこれで終わりにします。

以上です。

○相場一夫議長 暫時休憩いたします。

〔午後 零時16分 休憩〕

○相場一夫議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午後 1時20分 再開〕

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 機構改革と副町長と教育委員と町道19号まで、執行部の意見を聞きました。

続きまして、中央公民館建設についての質問をいたします。平成19年9月と12月、平成20年3月と21年6月、3年間で私は4回質問に立っています。きょうは14日、5回目の質問に入りますけれ

ども、町民の声として明瞭に回答を願います。また、町民のためを思って、ひとつ前向きな答えを私は要求します。

定例会で21年9月9日、これは会議録の70ページにあると思うのですがけれども、多目的ホールを備えた公民館の建設というI議員の質問に対して、総合5カ年計画の中での3年経過したものはローリングをしますと、公民館の建設、改築も含めて22年度には改築に向けての計画をしていくと、改築に向けて計画していく中で、22年度には多目的ホール建設に向けての検討委員会を立ち上げると、これは町長は全協でも話したと思います。そういう流れの中で、中央公民館（多目的ホール）設置の要望にどう町長は答えるかと、1つとして、邑楽町公民館の耐震診断をやって結果が出ましたよね、診断結果では多分Cランクに入ったと思うのです。こういうCランクに入った以上は、これからではどうするのかと、またその診断費用というのは幾らだったかということをお教えしてもらいたいと思います。また、再診断、次の診断は私はしなくてもいいと思うのに、診断を進められていると、そういうことで経費節減のために、また9月5日に進めますよという議会での約束でありますので、どのようにこれから進めていくのか、その辺を町長からお聞きしたいと思います。明瞭に、前進的に物事を、答弁をお願いしたい。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 中央公民館の建設に係るご質問であります、その前に邑楽町公民館の耐震診断の結果がCランクということが出されたら、それから委託料は幾らかということですが、この部分については、ちょっと済みません、失礼いたします。

失礼しました。診断の結果というのについては、議員からご指摘があったようであります。そのとおりだというふうに今確認をいたしました。委託料については、58万8,000円ということでございます。

さて、その建築に向けての考え方ということでもありますけれども、そのような状況の中で、実は22年の5月21日でありますけれども、総務・文教常任委員会、それから全員協議会の席で、たまたま私がちょっと欠席をしてしまったわけでもありますけれども、その中央公民館の建設検討委員会の設置要綱を担当課長から報告をいたしました。その全員協議会の中では、その検討委員会を設置するのはまだ時期が早いだろうと、それからこの検討委員会の、まず公民館をだれが建設するというのを決めたのかというようなお話があったようです。そのような状況を受けて、5月31日にやはり総務・文教常任委員会、それから全員協議会の中で、担当課長から建設の場所について誤解を与えたというような中で報告をしたということでもありますけれども、実は邑楽町中央公民館検討委員会の設置要綱に基づいて、その検討を進めていくべき報告をしたわけでもあります、その後6月の定例会において議員から動議が出されまして、公民館のみならず生涯学習施設すべて耐震診断を実施して、総合的な耐震化を進めることが必要だろうというふうな動議が出されたのは議員もご承

知のとおりだと思いますが、この動議は賛成多数ということで、可決をされたということでございます。したがって、現在今議員が言われましたように生涯学習施設については、その耐震を必要とする施設について耐震診断を実施しているというのが現状でもございます。7月20日でありますけれども、その折に公民館の耐震診断の結果について報告をされたということが、今議員が言われたCランクということになるかというふうに思うわけですが、当然のことでありますけれども、私自身、過去にこれは議長にもですが、私にも約1万1,000人からの要望というものが出されております。これは、町民の皆さんの多くの要望ということに受けとめているわけでありますけれども、そのようなことを考えた場合には、やはり中央公民館、あるいは名称を変えたとしても生涯学習施設の建築に向けての検討というのは必要だろうと、そういうふうに思っております。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 町長は、全協で自分の考え、要するにこういうふうになりたいよと、民間から検討委員会の中に2人選任したいのだと、そういう流れの中で民間から入るのではおかしいではないかというようなことで紛糾した記憶は私にあります。それであれば、先ほども触れましたけれども、では議会の総務・文教常任委員会の中でどういう構成にしていいたかとか、その辺を投げかければそういうごたごたの議会にならずに、このまま耐震診断をしたら、この間も町長は1万何人からの署名が集まったのだからやりますよという流れの中では、当然どんどん進めなければならないと思うのです。ということは、あなたの公約の中には任期中にやりますと、そういうふうに行っていると、そのチラシを、私の郵便受けの中にも入っていましたけれども、最近ではこれが、知ってのとおり約1万1,000人の署名なのです。これは、町長はいつも8,000人の署名が集まった経験があるからと、すごく重いものなのだ。であれば、この公民館（多目的ホール）なのです。だから、公民館は前の生涯学習課長も答弁していると思うのです。何を言っているかということ、老朽化していて、非常にエアコン云々もう古いのだと、そういうことでいかに補助金をつけてもらえるかと、そういういろいろ調査をしているのだと、そういうことがはっきりわかっているのに、これ耐震診断をするから、あっちもこっちもではやれよということになってしまっているのだと思うのです。建て替えであれば、私は何回も言っているけれども、柱1本、土台1本、それを残せば改築なのです。あと1年しかないのに、あなたの公約どおり任期中にできるのかね、だから私はいいかげんだというのです。いざとなれば、では議会が悪いのだと、それでぼんと投げ捨ててしまうから、私はがらがらぼんだと言っているのです。だから、そういう計画性のない仕事をあなたは、ずっとここ3年間見ていて粘りが無いのです。では、どういうふうにしたら議会が納得するのだ、8対7で議会が通るのだと、そういう物の考え方が、何も100%、みんな顔が違うのだし、100人が100人全部、はい、金子町長、賛成ですという人はいないです。そういう流れの中で、こういうもう傷んでいる、それで利用するには本当に不便だ、そういう施設を早急にかえていかなければ、町民の利便性というのですか、教育ですか、本当に大事な、文化というのは精神面だとか、今うつ病というのがはや

っているらしいですけれども、そういう面にすごく文化というのは寄与しているのです。病気になれば今度は、これはちょっと私の質問から外れてしまいますけれども、健康保険だとか国民健康保険とか、そういう保険、お金がかかるほうへ向いていってしまうのではないかなと。そういうことで、平成21年11月24日付で文化協会長、区長会長、愛育会会長、公利連会長、音楽連盟の代表より約1万有余人の署名要望が出ているのですよね。その要望書の表題は、先ほど私がこのチラシを見せたように、公民館、多目的ホールを備えたという要望書です。町長は、さきの全協で、先ほど話したように建設委員会を立ち上げてと出しておいて、町民代表の2人の問題で、そのまま立ち消えになっていて、だからどんどん、どんどん時間が過ぎていってしまうのです。だから、そういう流れの中で今度は課長がかわったりするから、またこれで新しい課長は、この庁舎の西のほうにつくるなんて言い出すから、またごちゃごちゃになってしまうわけです。だから、そういうことを考えたら、これ早急に、第2次診断なら第2次診断をやってもいいです。だけれども、中央公民館をどうするのですか、町長、今現時点の考えで、改築するのか、それとも新築するのか、それともそのまま耐震補強、Vの字入れて使うのか、その辺の回答をお願いします。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほども経緯を報告させていただきましたけれども、全員協議会に報告をいたしました。その後、6月の定例会の中で動議が出され、その動議の中身については、公民館のみならずということで、体育館も含め、武道館も含めた中の耐震診断をやるべきではないかということで動議が可決されたという経緯は、議員ご承知のとおりだと思います。ご存じですね。したがって、私は先ほど申し上げましたけれども、生涯学習施設、全体的な状況を見た場合には、私は議員の皆さんの意向も十分反映する中で、この建設に向けての検討委員会を設置したいと、そのように思っております。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 それから、落としましたが、先ほど任期中に建設というお話がありましたが、私は任期中には建設に向けた筋道ということでお答えしているかと思っておりますので、誤解がないようにお答えいたします。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 町長がそう言うのではないかなと思って、私は一応私の郵便受けの中に入っていたのを持ってきたのですけれども、とにかく金子町議は私たち大勢の前で、町長になる1期目に建てたいと言われたと、そういうふうな私の郵便受けの中のあれには書いてあります。だから、こういう皆さんの支持を得た町長であるので、これはあなたが全部執行できるのですから、ぜひ検討委員会を立ち上げる。では、これはタイムスケジュール組めば、いつごろ立ち上げてどういう、要は2人ではだめだよといったと思うのです、では民間から6人も7人も8人も出したっていいの

ではないですか、私は公募が好きなので、ちゃんと公募する。町民のものなのだから、町長のものではないのだから、町民が使い勝手のいい、また安くできる、それで私は、町民というのは原則的には無料で使用できる、そういうものがないと思うのです。まずは、でもそれは時代の流れだとか、そういうのでしょうがないけれども、タイムスケジュールで、いつではこの委員会を立ち上げる予定があるのですか、これ多少ずれてもいいですよ、2週間、3週間、1カ月ずれても。目安がなければ、町民がこれだけ1万何千何百人も署名した人たちが、議会はこうなっているのだと。そういうことを私はまくら言葉で話したけれど、町民の代表としてきょうは質問に立っているのです。町長も町民の代表です。ただ、あなたは執行機関です。だから、ちゃんとタイムスケジュールを頭の中で計算して、いつごろなら出せるとはっきり言ってもらいたい。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 要綱を研究した中で、先日お示しをしたということでもございます。要綱ということでございますので、担当課長と協議して、早急に立ち上げたいと思います。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 今明快な回答というのですか、担当課長と相談の上ということなので、とにかくかなりもう老朽化していて、それで利用度がかかなり多いのです。だから、そういうことを考えれば、もう一つお伺いするけれども、現在の場所で建て替えてもらえれば私は何の問題もないと思うのですけれども、その辺の考えはどうか、町長お聞かせください。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 そのことも含めて、総合的に検討委員会の中でいろいろ議論していただくのがよろしいかというふうに思っていますので、その検討委員会の結果をいろいろ考えていきたいと、そういうふうに思っています。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 今の答えなので、それにもう一つ、答えによって私も頭の中変わったのですが、検討委員会が、ではこの役場の西につくると言ったら西になる可能性があるのですか。その答えは町長、西か、今の場所か。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 可能性としては、その議論の中で十分議論していただく、意見を出していただくということの結果ということになれば、やはりそのような状況も可能性としてはあるかなというふうに現時点思っております。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 私は、この問題を打ち切ろうと思ったけれども、今の町長の話だと、これ課長に考えてもらわなくてはならないけれども、これ間違っただけは話されたと認識しています。だけれども、今の町長の話だと、今度は疑います、町長が指示出したのではないかと。だって、課長よりも町長のほうが偉いのだもの。間違っただけと言ったから、それは人間というのはだれでも間違いはあるのだなと、私はそういうふうに認識します。では、生涯学習課長、本当に西のところへホールつくると言ったのは間違いだったのですか、その辺確認します。間違いではなくて、いや、はっきり言っていいのですよ、町長の命令だと、町長が命令したのならば。はっきりその辺を、私は町民の代表なので、まくら言葉にも話しましたけれども、ちゃんと明快な、町長よりも明確に話してください。

○相場一夫議長 大朮生涯学習課長。

〔大朮 一生涯学習課長登壇〕

○大朮 一生涯学習課長 お答え申し上げます。

役場の西ということで、以前5月21日の全協の中でお話ししまして、その後5月31日、これは私がそちらに建てるというような誤解を与えるような回答をしたということで皆様にはご報告してあります。先ほど町長が言われましたとおり……

〔「間違いか、間違いじゃないかというんだよ」と呼ぶ者あり〕

○大朮 一生涯学習課長 間違いです。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 とにかく間違いか間違いではないかといったら、余計なこと言わなくたっていいのだよ、間違いでしたでもいいでしょうに。だから私がかかりかきするのだ。そういうことで、中央公民館の、とにかく早期に改築なり新築なりの方法で検討して、それで検討委員会を立ち上げてもらいたい、そういうお願いの後で、次の質問に移らせていただきます。

次の質問としては、町営住宅建設の経費節減と民営賃貸住宅の活用をということで質問させていただきます。現在3階建ての設計でできています。だけれども、3階建ての東向きのような建物であれば、当然エレベーターとかそういうのがつきます。それと3階建てですから、前の質問の中でも話したけれども、とにかく今は車社会、駐車場等、そういう流れの中で耐用年数が70年と、コンクリートは一言で言って100年と言われてはいますが、そういう要するにランニングコスト、こういうことを考えるならば、やはりこれは町の税金で運営しなくてはならない。そういうことを考えた場合ならば、一つのそういう例があるかと町長はすぐ聞くのですけれども、庁舎建設がありましたね、太田市が庁舎をつくる時に半分の高さでいいよと、そういうことを考えれば、これは私は2階だっただけいいのではないかと。その理由としては何かといいますと、2階にすればエレベーターは要らないし、それと駐車場のスペースがなくなるから、当然駐車場の確保も楽になると、そうい

うことを考えれば、まずそれが一つです。

もう一つは、今木造の10坪か12坪の建物ですけれども、これはこの前も提案しましたけれども、木造にした場合は、県産の材木を使うと、これは安くというか、多分10%の補助が出るのかなと記憶にあるのですけれども、そういうことを考えて、それで一番下の1階はお年寄りを入れるというような構想でした。このお年寄りは、これからやっぱり庭があって、それで樹木を植えられたり花が植えられたり、そういう安らぎのことを考えれば、やっぱり商店の近くだとか、そういうことを考えれば当然これは一戸建てでやればということを私は提案したいのですけれども、その辺の考えをお聞かせください。

○相場一夫議長 横山土木課長。

〔横山正行土木課長登壇〕

○横山正行土木課長 お答え申し上げます。

石打町営住宅の建て替えに当たって、2階建てでよいのではないかと、また2階建てに変更することによってエレベーターの設置も不要となり、住宅戸数も減少することから駐車場の増設も必要なくなるのではというご提案をいただいたところでございますが、町営住宅管理計画につきましては、邑楽町住宅マスタープランに基づき既設の久保林住宅、大黒第一住宅の用途廃止を視野に入れた中で、邑楽町町営住宅運用管理委員会でご検討をいただき、邑楽町石打町営住宅建替基本計画が作成されてございます。この内容につきましては、鉄筋コンクリート3階建て、2棟建てで全34戸の答申をいただいているところでございます。今後の推進につきましては、来年度、平成23年度に邑楽町町営住宅運用管理委員会を設置し、基本計画、実施設計を具体的に検討いただきまして、できれば平成24、25年度の2カ年で住宅本体及び附帯施設を建設していきたいと思っております。ご理解を賜りたいと存じます。

また、高齢者等を入居対象とした町営住宅のあり方についてのご提案でございます。入居者の利便性を考慮した町営住宅の位置の選定、さらには民間賃貸住宅を借り上げるなどの町営住宅の維持管理の手法につきましては、議員ご指摘のとおりと認識してございます。今後とも継続をして検討してまいりますので、これにつきましてもご理解賜りますようよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 課長からはいつも単純明快に話されてくれるので、とにかく今こういう不景気な時代で、またこれからも、恐らく前の議会でも話しておりますけれども、いろいろの識者、要するに学者だとか、そういう人たちの見方は、景気はよくなるよと、これからだんだん交付金云々ということ、要するに受益者負担がいろいろな面で普及される、また認識されるような時代になってくるよと。そういうことを考えたら、やっぱり今税金を払っている、そういう土地を持って

いる人、また家屋、財産を持っている人、そういう人たちの生活をできるだけ和らげるような経済政策であれば、やはり賃貸住宅の借上げだとか、そういうことも視野に入れて町政運営をやってもらいたいと、私はそう思うので、ぜひこれからいろいろ研究、また精査して、そういう方向でとにかく町民の利便性と、また町民が町政に協力できるような政策をやってもらいたいというお願いで、次の質問に移らせていただきます。

続けて質問させていただきます。続きまして、福祉政策を柱としてのノーマライゼーション、産業推進構想研究組織の設立を提案するものであります。現在邑楽町には、町の特産品としてのお土産物とか、またスーパースターになれるような、食材にしても芸術製品にしてもありません。これをとにかく推進するには、やはり人を大切にする心の広さと、あとは政治を職業とする我々が今まで学んだこと、それは相手の心を思いやる、きょう午後の質問の前に、怒の心だよと仲間の議員が言ってくれましたけれども、確かにみんながそういう物の考え方で相手と、人と接する、そういう研修を重ねるたびにみんなが勉強になるのではないかと。その一つの例として、鳴子の米プロジェクト、農家と旅館と役場と農協と試験場と、立場を超えて支え合っている。また、長野県の東御市の永井農場では、やはり3集落、20棟を入れて年間6,000俵の米、また乳牛の搾乳、牛が25頭いるそうです。スタッフが9名で、農家としてはこれはすばらしいなと思うのは、スタッフが9人の中で、平均年収250万円を払っていると、農産加工に力を入れてモチ米加工、牛乳の加工、アイスクリームにするそうです、軽井沢が近いので。付加価値を高めて販売し、楽しい農業を営んでいると、そういう研修を小沢議員と行ってきたのですけれども、メルヘンの社会というか、宮沢賢治のそういう本を読んでいるような営みのレストランを持っている、そういう農場です。そして、知的障害授産施設のほうでは、蔵王のすずしろでは、18歳以上の知的障害を持った人が通所により仕事をしながら、自立社会への復帰と訓練を行う施設で、全国の授産施設へ通う人の平均工賃は何と1万2,000円から1万3,000円、これは2年前の資料なのですけれども、今はもっと低くなっていると思います。蔵王すずしろでは、知的障害者が自立できる工賃を目標に、付加価値が高いグルメ豆腐を生産し、原料や製法にこだわり販売販路や宣伝製品の改良も研究して、地元の生協や大手スーパー、また仙台市の百貨店に直売オープンを、お店を出したと、インターネット販売もしていますよと、何と年間販売額も1億5,000万円も売り上げているのだよと、平均賃金は1人約6万円から10万円を超える人もあると、全国から高い評価を受けていますと。なぜこういうことがこれから必要かということ、障害を持っている人だけではなくて、やっぱり健常者と障害者が仲よく生活していける、また親に先に旅立たれても安心して生活ができるような、そういう社会システムをつくっていくのだよと。だから、その施設長の話によれば、仕事はどんな難しい、要するに高度な技術も細分化することによって簡単にできるのですよと、そういう思想を植えつけています。作業に取り組むことにより、成功の秘訣はそういうこと、とにかくどんな人でも小さいことはできるのだよと。邑楽町にあっても、現在社会福祉協議会が指定管理を受けている中で地域活動支援センターの邑楽町福祉

作業所、特定非営利事業の最近NPOの資格を得られた法人なのはな園があります。それで、この2施設がありますけれども、そこで地産地消を組み入れて、それで各、これは最近新聞でも高校生が製品をつくったものが結構売りになっています。そういう流れの中で蔵王すずしろのような、とにかく役場と農協と商工会と、あとは町の文化団体、あとは高校生を含めたプロジェクトを立ち上げることによって、町長がよく話される地産地消の発展は、みんなが楽しく、怒の心で汗を流したり、手にまめをつくったりすることによって、障害者も健常者も助け合う社会を目指す企業理念を持って町の特産品がそこでできてくるのかなと。だから、例えば永井農場なんかでも、モチが辛いものがあったり、ユズのにおいがしたり、いろいろなモチをつくっていました。それは、やっぱり日持ちがするとか、近くに市場がある、軽井沢があるとか、そういうことを考えれば、何回も私は皆さんの前で発言していますけれども、354号があつて122号があつて、でかい東京の市場がある。今はインターネットだとか、そういうのをどんどん活用して、だけれどもいいものでなければ、これは受け入れられない社会であります。そういうことで、町長、旗振りがいなければ、これは前へは進みません。納豆ではないから、みんな手をとり合わなければいけないです。1つのボランティア団体が資金を貸してくれているのですね、一説によると1,500万円から2,000万円持っているとか。そういう流れの中で一生懸命やると、あいあいセンターもすごく繁盛しています。だから、そういう町民の中にはすぐれた能力のある人がいっぱいいるのです。そういうことを考えれば、町長一つ自分でトップセールスになって、それでやってもらえればということで、その辺の考え、町長はどういう物の考え方を持っているか、率直に答えてもらいたい。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 健康な方と障害を持っている方が、まさにともに生活ができるような社会をつくるということは、だれしも望むところでもありますし、その中での行政の果たす役割は、これは大変大事なことだと思っております。ただいま大変貴重な提案をいただいたわけではありますが、私も議員と同様に、そのような形でこれからも進めていきたいという思いはあります。例えば邑楽町に、ブランド農産物として邑美人という白菜がありますが、このブランド化を図るのにも生産者の皆さんが何十年もかけて培ってきて、結果として消費者の方に大変受け入れていただけるようなブランド化が図れてきたと。ただいま議員が福島県のすずしろの知的障害者施設における豆腐等の、大変立派な成績を上げているところの紹介もありましたが、これらについてもやはりその土地に合った豆腐ということで限定をすれば大豆、大変他の地域には作付ができないといえますか、収穫ができないというような地理的な要件、それから当然ですが水の問題もあります。そういうこと環境がすべて整った中での、そういったすばらしい製品が多くの消費者の皆さんに利用していただけるのかなと思っております。

そういうことを考えたときに、町でも、実はこれは産業振興課の所管になりますけれども、この

製品の開発をした場合には、町でも若干であります、補助金等も予算化をしているところでもあります。今各種団体、あるいは高校生という具体的なお話もありましたけれども、そういった福祉団体と地域の皆さんに理解していただく中での、やはりそういった推進をしていくための機関というのは、大切なことでもあります。今米だけ取り上げた場合でも、認定農家の方がそれぞれ町の米のブランド化を図るべく、それぞれ製品を、米を出荷していると。最近では、特に近くにありますところの大型店にもその米を置いていただけるというようなこともありますし、これは私も先ほどのトップセールスではありませんけれども、ぜひそのような形で地元産の農畜産物を利用していただけるとお願いした経緯もあるわけですが、大変時間のかかる部分ではあるかもしれませんが、私は議員の提案については、そういうことで一緒になって進めていければと、そんなふうにお答えをしたいと思います。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 先ほど話されたように、邑美人ですね、白菜の。これは、確かに味としてはおいしいと。だけれども、とにかく宣伝する、仲間がいないから少ないのです。農家だけで、一生懸命これおいしいよ、食べてくださいよと販売ルートを持ったって、やっぱり食べるのは町民であり、またそれに付随した家族であり、そういう販路がとにかく多くなければ、人に値をつけられてしまうのです。自分のところで値をつけられるようにしなければ何にもならない。だから、そういうことを考えると、私も知り合いが前橋、高崎にいますけれども、食べてみると本当においしいと。おいしいけれども、これはどこでできているのですかと、その辺のブランドというのですか、名前がいまいち通っていないです、みんな市場へ行ってしまっ。それと、時期が秋から、とにかく3月までとか、一年じゅうを通してのそういうもの、またちょっと下げてお土産に持っていけるものとか、そういうものも必要かなと。それから、相乗効果としてそれができれば白菜も、うちの町にはありますよと、そういうことでどんどん波及していくのですけれども、それともう一つ、今名前を○農業高校では5年前かな、やっぱり人間の力というのは舞台ができると、これも文化になるのですけれども、舞台ができるとすごい力を発揮します。奈良女子大学に発表大会行きました、○農業高校のそういう生徒が。だから、そういう研究をしたり、いろいろなものをやる教育の場なのです、これは。子供がいると、必ずお母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、うちの孫が開発したのだから、つくったのだからと、そういう効果がすごくあると思うのです。ぜひこれは、何の社会でもそうだけれども、若者がやっぱりどんどん目立ってもらわないと、経済は伸びていきません。そういうことを考えれば、とにかく鳴子では平成6年ごろから始めた仕事が今実っているわけです。2年前ごろは、田植えするともう全部完売されているような状態の米のブランド化、そういうことを考えれば、とにかく早急にこれは、3団体でいいのです。それで、入るものは拒まずみんな入れてやるのです。そのかわり、ちゃんとした簡単な規則をつくる、人に迷惑かけないとか。そういうことをぜひやってもらって、次の質問に、提案に入りたいと思います。

次は、町の文化財の保存をということで、いつか私話したのだけれども、やっぱり生涯学習課長がいなくなってしまったので、ちょっと今のところ頓挫していると思うのです。これは何かといいますと、例えばみんなちょっとわかりやすいのは、うちの前の道が町道3号線かな、これをずっと群銀過ぎて西へ向かってくるとれんがづくりの、昔私が遊んだのがローラースケート場、これは高沢の倉庫と言っていましたけれども、こういうものを大事にしないと、あれみんなもう要らないからなんて、今はすごい機械で多分半日ぐらいで片づけられてしまうのかなと。そういうことを考えたら、これ町のそういう歴史、これも教育の一助となると思うのですけれども、その辺の認識というのですか、それもまずあそこを見ればみんなわかるのだ、ああ、これは何だろう、すごいなと、夏はこれ涼しいだろうとか、冬は寒いだろうとか、そういう一つの考える力というのですか、そういうことも大事なので、とにかく早急にいろいろそういうアプローチですか、例えば安く貸してくれないとか、多分あそこ今農協が持っていると思うのですけれども、そういう流れの中で、あとは歴史を考えれば、おとといかな、私と加藤議員でちょっとやっぱり公民館の2階を見てきたのですけれども、前生涯学習課長がいなくなってしまったからあのままになっているのですけれども、歴代の中野の織物組合の会長の肖像画、かいたものもあつたと思います、古いから。たしか現生涯学習課長のおじいちゃんの時代の人なのですよね、茂木さん、高沢さん、小島貞次郎さん、鈴木さん、そういうそうそうたる中野の機織り産業を引っ張ってきた、そういう人たちは大事にしないと、あそこへただ置いておくのでは本当に町の発展とか、先ほど話したように子供たちが、ああ、こういう歴史があつて、こういう人なのだと、そういうことが非常に子供たちの教育には大事ななと。ということは、子供が1度小学生、中学生の時代に美術館へ行くと、必ず大人になっても足を向けるというのです。そのぐらい、人間が初めて見たものとか感動したものだというのは、人間の心の動物というはあるらしいです。そういう流れの中で、これから町の、キンモクセイ、ギンモクセイはおかげさまで、金子町長のおかげであっちへ移動してもらいましたけれども、その辺の物の考え方をひとつ町長からお聞きしたいと思います。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先人が残してくれた伝統、文化も含めて、これは過去の皆さん方の大きな力で現在があるわけでありますので、私自身も文化財のみならず、そういった遺跡等については、やはり大切に保存していかなければならないと思っておりますし、これから次代を担う子供たちにも、そういった情操的な環境の中でも、やはり知っていただく、そのことによってこれから自分たちがどう生き抜いていくかということにもなるわけですので、私も議員と同じように文化財等についての、遺跡も含めて大切に保存をしていきたいと、こんなふうに思っております。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 そういうことで大切に保存していくこと、町長の話をいただきました。そう

いう流れの中で、ではこれをどのような形で若い人たち、また我々の世代は、恐らく所得倍増計画、列島改造論でどんどん、どんどん働いていたから、そういうことが本当におろそかになっています、私を初め。だから、今になって気がついて、ああ、これは今のうちに手をつけておかなければ教材にはならないと、そういうことで町長にお願いしたのですけれども、それで、これも組織が必要です。ただ町長がやりますよ、私がここでお願いしますと言っただけでは、下部組織は育ちません。そういう流れの中で、ひとつ町には優秀な職員もいましたけれども、今も一生懸命やっています。そういう中で、呂楽町には美術とか、そういうものにたけている学芸員資格者、持っている人が今何名いると思いますか。時間の関係で私が話してしまいますけれども、呂楽町職員で3人、臨時職員で4人いるという資料をもらってありますけれども、これに間違いはないか、お答えを願いたいと思います。

○相場一夫議長 大肱生涯学習課長。

〔大肱 一生涯学習課長登壇〕

○大肱 一生涯学習課長 答え申し上げます。

先ほど小島議員がおっしゃるとおりの人数の職員がおります。

以上です。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 そうすると、この美術とかの例えば持ち運びだとか、その辺の、あとは光度、光が当たってはどうかの、それと温度、そういうことを考える場合に、これ資格、しっかりした知識のある人が中へ入って、これは町の職員であれば当然給料を払って、そういう流れの中で、これはやっぱり組織が必要なのです。それで、一生懸命掘り起こすことによって、町の篤志家が昔は御影石の橋を個人でつくったらしいですよと、そういう歴史がある中で、中央公民館の庭に、やはりこれはあのまま積んである。これを今度は中央公民館を改築だ、新築だするとき、邪魔だからどこかせとどこかへ行ってしまえば、学芸員がいればこのものがどこへ行ったとかあるのですけれども、かつて中野中学校の、町長知ってのとおり、でかいみんなが記念撮影した石ころがどこへ行ってしまったかわからないでしょう。あれを小島貞次郎さんという人が、中学校ができたときに寄贈したものなのだけれども、そういう人の心を、さっき恕の心と言ったけれども、相手を思いやる心が教育には大事なのです。そういうふうになんかいろいろなものが行ってしまっているわけ。それを今言った学芸員さんがちゃんと、こういう人たち、多分金もうけで資格取ったのではないと思うのです。使命感だとか、好きだからということで資格を取って、そういう自分のライフワークにしているのかなと。そういう人たちを中心にやる。それで、郷土芸能もそうだけれども、あとは要するにボランティア団体もそうですよね、町のボランティアでやっている、公民館で即売会やっているけれども、すごいにぎわいです。そういう一生懸命やった人に、学芸員の文化祭とか、文化の日には、ちゃんと励みになるように感謝状なり賞状なりを学芸員が推薦して、今で言うノーベル賞ですね、

そういうのがこれからやっぱり必要ではないかなと。これは、やっぱり売名行為ではなくて、うちのおじいちゃん、おばあちゃんが何十年もこういう仕事をやって、町長からもらったにしても学芸委員会からもらったにしても、それがやっぱり教育なのです。だから、そういうことを考えれば、非常にこれは大事な仕事なのです。教育長が不在で、教育長にはこれはそういう任務があると思うのですけれども、そういうことで町長、早急にその辺の組織をつくってもらいたいと思うのですけれども、その辺どうですか、考えは。お金かからないですよ。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 大変貴重なご意見をいただいているわけでありましてけれども、現在町には文化財保護調査員という形で5人の皆さんに協力をいただいで、定期的に町の文化財保護、保存についていろいろご意見をいただいているところでもございます。これが組織化ということに当たるかどうかは別にいたしましても、やはりそういった文化財、遺跡等について専門的な立場から調査をし、保存、保護するというところで現在行っておりますし、そういうことで大変邑楽町には国の指定の天然記念物ですとか、あるいは県指定の天然記念物、具体的に申し上げますと国指定では永明寺のキンモクセイ、それから県指定では神光寺の大カヤですとか高島小学校のトウグミ等があるわけでありまして、大変そういった点では町指定の重要文化財ということも指定をしてありますので、言われましたような文化財等があれば、このような調査員をお願いをした中で今後大事に保存、保護していくと、大切なことだろうと思っております。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 歴史遺産のことで今町長は話されたと思うのですけれども、私が言っていることは、せっかくこの職員さんが7人いるわけです。こういう人たちにも、文化財保護委員会があるからいいやではなくて、入ってもらって、それで人間が、例えばきのう大野議員が言ったように、要するに渡良瀬川の川学習だとか、そういう人を育てる、また簡単に言えば八木節だとか、そういう指導を7区の場合なんか公民館ですとずっと続けてやっています。体育関係は、町民体育祭のときに多分10年だか15年以上携わった人には、町長ちゃんと表彰を出しているでしょう、やっていたよね。それと同じように、文化的なことというのは非常に目立たないのです。だから、そういう文化的なことを一生懸命指導している、子供に太鼓の指導している、そういう人たちにも光を当ててもらいたいと思っているのです、私は。その辺どうですか。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 大変大切なことですので、今後研究させていただきたいと思います。

○相場一夫議長 小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 きょうの私の質問は、本当に右か左か、また手のひらを返したように裏か表

かと、そういうような単純なものではなくて、やっぱりがらがらぼんではなくて、非常に大事なことであるけれども、すぐにまた決まらないことだと思います。だから、すぐに決まらないのだから、早急にこれをやらしてもらわないと、あっという間に大正橋の御影石がどこかへ行ってしまったり、歴代の織物組合の会長の肖像画、またこれもどこかへ行ってしまったり、そういう危険性があります。そういうことを考えれば、ちゃんとしたそういうものを収納して、これからの歴史教育、そしてやっぱり人間、どういう人物だったのかなと、私財をなげうって橋をつくった人がいたのだとか、そういう教育が大事ではないのかなと、心の教育が。そういうことを町長、手を携えて一緒にやりましょうよ、議会と。それには、それが先ほど話したように頭の中、心の中、複眼的にものを考えないとやっていけないと思うのです。ひとつそういう障害者の組織、地産地消の、それとこういう文化的な仕事、目に見えるものばかりが政治ではないと私は思うのです。

以上をもちまして、私のきょうの一般質問は終わりといたします。皆さん、どうもありがとうございました。

○相場一夫議長 暫時休憩いたします。

〔午後 2時29分 休憩〕

○相場一夫議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午後 2時45分 再開〕

◇ 小 倉 修 議 員

○相場一夫議長 12番、小倉修議員。

〔12番 小倉 修議員登壇〕

○12番 小倉 修議員 質問に入ります。

金子町長、任期4年の3年が過ぎ、わずか1年を残すことになりましたけれども、昨日の会議の中で2年のときは70点、3年に入って75点、このぐらい議会をばかにした発言はない。議会人を何だと思っているのだ、あなたは。あなたぐらい町長としてふさわしくない言動、とんでもないことだ。何が75点だ。9月の定例会において問責決議案が可決され、2年のときは70点だけれども、今度は75点だと。自分が議員やっているときは、否決をされても賛成をした人を訴えて、金をよこせと裁判で司法の場へ持って行って置いて、負けそうになったらとっとと逃げると、放棄をして逃げたのです、あなたは。今度は、問責決議で可決をされ残念、訴えたらどうですか、司法の場へ。私みたいな立派な町長、町民から支持を受けた立派な町長を、議員のばかやつら、問責決議やって可決しやがったと。幾らでも、私はあなたが訴えれば、あなたがまた逃げるまで追いかける。どうですか、自分ではもうこれ以上立派な町長はいないと思っているのでしょうから。訴えたらどうですか、司法の場へまた。私は幾らでも受ける。あなたは、一晩明けてまだ75点だと思いませんか、N

HKではございませんが、株や為替と同じように、あなたは今変わりましたというような方でございます。もう一回お聞きしましょう、私が。あなたは3年を過ぎて、実績からいいまして何点をつけますか、伺います。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 昨日もお答えをいたしました、あくまでも私の自己評価、自己採点ということで申し上げたわけでございますので、昨日の答えのとおり理解をしていただいて結構でございます。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 小倉修議員。

○12番 小倉 修議員 70点から5点上がって、私はあなたに謝罪を求めます。あんなばかげた内容の点数なんてない。議長、私は町長に対して謝罪をお願いしたい。

○相場一夫議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 ただいま申し上げましたが、自己採点ということでございます。議員それぞれの私に対する採点はまちまちかと思いますが、そのように理解をお願いいたします。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 静粛にお願いします。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 質問を続けてください。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 挙手して発言してください。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 町長、答弁か謝罪ありますか。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 静粛に。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 質問を続けてください。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 静粛に。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 町長、再度答弁を。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 暫時休憩いたします。

〔午後 3時01分 休憩〕

○相場一夫議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午後 3時30分 再開〕

○相場一夫議長 小倉修議員。

質問をどうぞ。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 町長、再度答弁をお願いします。

金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほど小倉議員の質問の中でお答えをしたとおりでございますので、ぜひご理解をいただきたいと思います。

〔「議長、30分休憩として議長室でどんな話したんですか、報告してください」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 今小倉議員の一般質問の時間中です。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 経過をお知らせします。

4人で話し合いをしようとした。それが、できなかったということで終わっております。

小倉議員、質問をどうぞ。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 小倉議員の一般質問中です。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 小倉議員の一般質問中ですので、その時間にいたします。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 町長、再度答弁を願いますが、謝罪があるのかないのか、明確にお答えを願いたいと思います。

金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほどもお答えをいたしました。そのことでご理解をいただきたいと思いますが、理解をできないということであれば、私は昨日の質問者にもお答えをいたしました。大変残念であったと、そういう思いであります。

○相場一夫議長 明確に、残念だったということですか。

質問をお願いいたします。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 静粛に。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 静粛に。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 静粛に。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 小倉議員、町長、そして私、3人でもう一度話し合いを、小倉議員どうでしょう。いかがですか。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 いかがですか。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 先ほど言ったとおりということですか。

〔「さようです」「議長、進行するか、時間をとめてください、暫時休憩を求めます」「さっきから言っているけど、何か一つの方法をとったほうがいいんじゃないですか、ただむやみやたらに時間が過ぎていくだけでさ」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 小倉議員の一般質問の時間はとってあります。

〔「議会やめましょう、延会しましょう」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 延会をしても、またここから始まるのですよ。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 同じ場所から始まります。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 先ほどから町長へ再三答弁を願ったわけです。町長は答えていますけれども。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 再度町長には答弁を願っています。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 私がこういうふうには答弁をしろとかなんとかという話ではないです。

〔「謝罪しなさいと言えればいいんじゃないの」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 そういう話ではございません。

小倉議員が一般質問を行っております。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 小倉議員がとってある時間帯の中です。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 小倉議員、質問を続けてください。

〔「町長が謝罪する気もないんだし、議長はとめる気がないんだったら私は退席させていただきます。ここにいる意味がない」と呼ぶ者あり〕

午後 4時16分〔14番 本間恵治議員退席〕

○相場一夫議長 町長、再度の答弁ですが、謝罪をするのか、しないのか、その点を明確にお願いしたいと思うのですが……

〔「議長、一般質問で質問者の質問をお願いしたいと思いますが」「暫時休憩」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 質問者が、謝罪をするのか、しないのかということになっているようですが、その辺明確にお願いできればと思います。

〔「帰るか」と呼ぶ者あり〕

午後 4時18分〔2番 遠藤幸夫議員退席〕

〔3番 大野貞夫議員退席〕

〔5番 田部井健二議員退席〕

〔13番 横山英雄議員退席〕

午後 4時19分〔6番 小沢泰治議員退席〕

午後 4時21分〔17番 石井悦雄議員退席〕

午後 4時36分〔12番 小倉 修議員退席〕

◎延会について

○相場一夫議長 ただいま出席議員が定足数を欠きました。会議規則第11条第3項の規定により、本日の会議を延会します。

なお、あす15日は午前10時より会議を開き、引き続き一般質問を行いますので、ご出席をお願いいたします。

◎延会の宣告

○相場一夫議長 本日はこれで延会をいたします。

お疲れさまでした。

[午後 4時38分 延会]